

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	
教科書	「産業財産権標準テキスト(総合編)」(発明協会)
補助教材等	著作権情報センターパンフレット
学習上の留意点	
レポートを課す。レポートは提出期限を遵守するなどの点を態度・志向性(主体性と自己管理能力)として評価に取り入れる。	
担当教員からのメッセージ	
<p>知的財産権とは、新しい技術やデザイン及びネーミングなど、知的に創作されたものを保護する権利であり、またノウハウなどの営業秘密もその範囲に含む、広い概念です。企業活動を営むうえで極めて重要な権利であり、うまく活用することで他社による模倣を防止したり、差別化を図ることができます。</p> <p>授業では、まず、「発明」について学び、理解するとともに、、出願明細書に記載すべき事項や出願から権利化までの一連の手続きについて学びます。また、特許電子図書館(IPDL)を利用する特許の検索方法を学んだ後、自分の卒論テーマに関連する特許出願があるかどうか検索実習します。さらに、我々の身近な「著作権法」、「不正競争防止法」についても学びます。</p>	

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス 知的財産権制度とは 特許法の概要	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・知的財産制度の目的、概要について理解し、説明できる。発明の要件、特許の登録要件について理解し、説明できる。	第1回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
2	特許権を取得するための手続き(1) 審査の流れ	①出願明細書に記載すべき内容を理解し、説明できる。 ②審査の流れを理解し、説明できる。	実際の出願明細書を読み、発明の内容についてレポートにまとめる。
3	特許権を取得するための手続き(2) ソフトウェア関連発明	拒絶理由通知に対する対応、明細書の補正の制限を理解し、説明できる。 ソフトウェア関連発明のクレームについて理解し、説明できる。	実際の拒絶理由通知書、補正書、意見書を読み、それぞれの内容についてレポートにまとめる。
4	外国での特許権の取得 実用新案法の概要	①なぜ外国で権利を取得する必要があるかを理解し、説明できる。 ②外国出願ルートについて理解し、説明できる。 特許法との違いについて理解し、説明できる。	第4回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
5	その他の特許法 ・新規性喪失の例外規定 ・共有に係る特許権 ・特許権が及ばない試験・研究	特許法に記載の他の重要事項について理解し、説明できる。	第5回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
6	特許権の活用	特許権の活用、特許権のライセンス、特許侵害等について理解し、説明できる。	第6回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
7	特許情報の収集(1)	特許分類などを理解し、説明できる。特許電子図書館(IPDL)を利用した特許検索ができる。	第1回～第7回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
8	中間試験		
9	試験返却・解答解説 特許情報の収集(2)	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・IPDLを利用して特許検索ができる。 ・検索された公報について、発明の新規性および進歩	各自の卒論テーマに関する特許公報を検索し、発明の内容についてレポートにまとめる。
10	特許情報の収集(3) 検索した特許の概要を発表する	第3者に分り易く説明できる。	第10回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
11	意匠法の概要 IPDLを用いた意匠検索の演習	・意匠法の概について理解し、説明できる。 ・IPDLを利用して簡単な意匠検索ができる。	第11回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
12	商標法の概要 IPDLを用いた商標検索の演習	・商標法の概について理解し、説明できる。 ・IPDLを利用して簡単な商標検索ができる。	第12回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
13	著作権法の概要	著作権と著作者人格権について理解し、説明できる。 著作権が制限される場合について理解し、説明できる。	第13回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
14	不正競争防止法の概要	権利の譲渡・実施権の許諾・設定という制度による権利の活用方法について理解し、説明できる。	第1回～第14回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
	期末試験		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総学習時間数			45 時間
講義			30 時間
自学自習			15 時間